

# だんないの道

## 第5号

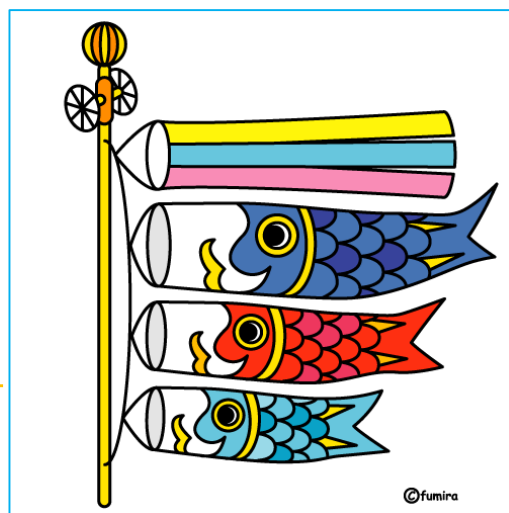
2012年5月22日発行  
発行者：NPO法人CILだんない  
代表者：美濃部裕道  
連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市  
木之本町千田681番4  
TEL : 0749-50-3639  
E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつ . . . . . P1

活動報告 . . . . . P2

コラム ヨリの雑記帳 . . . . . P3

職員リレートーク . . . . . P4



### 代表あいさつ

辛かった冬が過ぎ、やっと春が来たと思ったら、もう5月になってしまいました。時間の流れの速さに驚いています。この間、だんない1周年記念事業を開催させていただいたところ、年度初めというお忙しい時期にもかかわらず、たくさんの方々に参加していただきました。改めて感謝申し上げます。

私はこのシンポジウムで、重度障害者が自立生活を営む上での湖北地域の課題が確認できました。そのひとつに、1人暮らし、つまり自立生活を夢として掲げなければならないほど、この湖北地域では重度障害者にとって困難な願いであるということです。京都や大阪、東京、また事務局長が一昨年までいた熊本では、重度障害者が自立生活を送ることはそれほど珍しくはなく、外出すれば2、3人は障害当事者に出会うほどのようです。湖北地域ではどうでしょうか。私が外出しても、まず障害者とは出会いません。出会ったとしても1人ぐらいで、しかも大半が家族など保護者付きです。それだけを比較しても、湖北地域と前記した地域との違いは歴然です。

何がそういった違いを生み出しているのでしょうか。ヘルパーの数？交通の便の悪さ？施設が多いから？それとも雪深く生活しにくい田舎だから？（笑）。確かに、どれも違いを生み出している要因のひとつであることは言えるかもしれませんが、しかし、それ以外にもっと大きな要因があるのではないのでしょうか。私は、障害当事者・健常者問わず、湖北地域の住民に「障害者が自立生活を営む」という概念が乏し過ぎるからだと考えます。それは、私を含め、障害者を支援するワーカーにも言えるでしょう。「障害者が自立生活を営む」ことが湖北地域でも当然の行為として受け止められ、施設入所中心の支援から地域で自立する支援へ方向の転換が求められています。そのような支援を、まずはだんないが実践していき、それを湖北地域に示していかなければならないと改めて思います。そのようなことを今回の1周年記念では考えさせられました。

さて、5月になり定期総会を行う時期がやってきました。正会員の皆様におかれましては、何かとご多忙のこととは思いますが、総会へのご出席をいただきますようお願い申し上げます。つきましては、5月30日（水）午前10時より、だんない事務所にて開催させていただきます。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

## 活動報告

日付	内容	参加者
3月13日	長浜米原自立支援協議会 第3回全体会議	美濃部・市川・頼尊
3月16日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第7回重介護・医療ケア検討部会	頼尊
3月16日	長浜養護学校小中学部卒業式	美濃部
3月18日	電動車椅子サッカー審判講習会	美濃部
3月19日	帝産バス検証会	頼尊
3月22日	指定障害福祉サービス事業所等集団指導 ヘルパー研修会 草津にて	美濃部・頼尊
3月23日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第7回発達しょうがい者支援部会	頼尊
3月25日	第2回湖北地域の医療と福祉を考えるフォーラム	頼尊
3月26日	甲良養護学校 出張	美濃部、頼尊
3月27日	障害者虐待防止・権利擁護研修会	美濃部・頼尊
4月9日～10日	熊本出張（シンポジウム打ち合わせ）	頼尊
4月11日	帝産バス乗車拒否問題検討会議	頼尊
4月13日	障害福祉サービス報酬説明会	頼尊
4月14日	だんない設立一周年記念シンポジウム	全員
4月19日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第1回相談ワーカー部会	美濃部、頼尊
4月19日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第1回重介護・医療ケア検討部会	頼尊
4月21日	ピアカウンセリング ほっとステーションにて	美濃部
4月27日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第1回発達しょうがい者支援部会	頼尊
5月7日	JIL 関西ブロック会議	頼尊
5月11日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 第2回相談ワーカー部会	市川、頼尊
5月17日～20日	ヒューマンネットワーク熊本 ピアカウンセリング講座	頼尊、小里

## コラム

### ヨリの雑記帳（４）

最近、私は、車いすユーザーを講師に招いて、講演会が行われ、聴衆のひとりとしてその講演会に参加する機会を得た。会場は、高齢者福祉を推進するセンターであったように思う。建物の横には、バリアフリー関連機器を政策・展示するセンターも併設されていた。もちろん、そのような目的で建てられたセンターであるから、多目的トイレなどが多く設置されていたり、要所要所は自動ドアが設置されていたりと、さすがは福祉センターだなあと思われた。

さて、講義が始まる時間になった。そのときから、私の同施設に対する評価がガタンと下がった。な、なんと車いすに乗った講師が担ぎ上げられ教壇に現れたのである。そう、教壇は高さ30センチほどあり、そこにスロープが付いていなかったのである。私は、「ん？」と思った。

もちろん、バリアフリーをうたっている大学の中にも、教壇には段差があって車いすユーザーが登壇できないという話は、よく耳にする話である。つまり、聴衆としての車いすユーザーは、想定されていても、講師としての車いすユーザーは、全く想定されていないのである。そこには、障害者は教えられる人で、健常者は教える立場の人であるという暗黙の了解がある。もちろん、これは、ステレオタイプの障害者観でしかないのである。私も、学会などによく出席する都合、多くの大学を訪問する。あらためて今まで訪問させてもらった大学の教壇と構造を考えると、車いすユーザーの講師を想定して教室作りをされている大学は、残念ながらほとんどないといえる。

これは仲間内では有名な話であるが、とある福祉大学の福祉系の学科は、最近まで障害者の入学を認めていなかった。理由は、「福祉系学科は障害者などを支援する人を育てる学科なので、支援の対象者である障害者は入学を拒否する」というのである。障害者と共に学ぶ機会を奪っておいて、「支援者を育てる」っていても、どんな支援者が育つのやら。まさにステレオタイプの障害者観である。

問題の高齢者福祉に関するセンターの話に戻そう。休憩時間となり、タバコを吸わない私であるが、用があって喫煙所へ行くことになった。そこには、重たい重厚な作りの扉と、段差が私を待ち構えていた。そこには、自動ドアが設けられていないのである。喫煙所は屋外にあったので、自動ドアのある玄関から建物伝いに行けば、雨に濡れ、遠回りをするももの、喫煙所にはいけないことはなかったが、そのルートについても掲示などの説明もなかった。

実は、喫煙所も教壇と同様の問題があるのだ。多くの喫煙所は、階段を使わねばならなかったり、狭いドアがあったり、そこに行く通路だけ点字ブロックがなかったりする。バリアフリーの対象としては見られないのだ。実は、愛煙家である障害者も少ないとはいえない。ん。これは、いかに。

さて、この高齢者福祉に関するセンターの話には後日談がある。日が変わって再び、そこを訪れたときの話である。別館の軒下に古びた教壇を発見した。な、なんとスロープ付きのものではないか！そう、スロープ付き教壇を保有していたのである。今はあまり使われていないが、使うことも可能と聞いた気がする。それを常設していたら、「全国的にも先進的施設」であったに違いない。なんとも、トホホな話である。

（よりたか つねのぶ）

## 職員リレートーク

### なぜ私（介助者）に聞くの？

「どちらまで行かれますか？」（駅で）

「何名様でしょうか？」（飲食店で）

言うまでもなく、これは駅員や店員からの質問である。

しかし、外出介助の経験者なら経験済み？と思うが、この質問が障害当事者になされることは稀で、介助者になされることがとても多い。

介助者である私は、私に向かって行き先や人数を聞かれるたびに、「本人に直接聞いてください。」と言うことにしているが、外出介助の度に何度もそう言っても相変わらず当事者ではなく介助者に向かって聞く駅員や店員が多い。しだいに言うのが疲れ、心が折れてくる。当事者はもっと複雑な思いであろう。

なぜこのような状況が続くのだろうか。それは、多くの駅員や店員が、「障害当事者＝連れて行かれる人、介助者＝連れて行く人」という構図を無疑問的に前提としているからである。それは駅員や店員だけではない。社会がそうなのである。駅員や店員が障害当事者を無視して介助者に聞くということは、とりもなおさず、障害当事者が主体的に意思表示する機会を、社会が奪ってきたことを意味するのではないか。

確かに、知的障害者や、また言語障害が重度である当事者の場合は、介助者が間に入ることがある。しかし、その場合であっても、駅員や店員そして介助者が、当事者の主体的意思を聞くという姿勢が前提にならなければならない。

障害当事者とその介助者が外出する時は、当事者が行きたい所に行く為に介助者を利用中、ということであり、行為の主体は当事者である。

そのような認識が、社会の当然の認識になるように、社会に働きかけてゆかなければならないと思う。



寺本有二

NPO 法人 CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL : 0749-50-3639

URL : [www.ab.auone-net.jp/~dannai](http://www.ab.auone-net.jp/~dannai)

FAX : 0749-50-3961

E-mail : [dannai@ae.auone-net.jp](mailto:dannai@ae.auone-net.jp)

郵便振替口座番号 : ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115

加入者名 : NPO 法人 CIL だんない